

私	の		9
快	適	空	間

インターナショナル・コミュニケーションズ・スペースで英語力の強化

東京工業大学が一日も早く真に国際的な「世界最高の理工系総合大学」になるために、平成14年4月、学長のもとに国際室が設けられました。以後、国際室は国際化を進める計画を立て、関係する部門を調整し、学長のリーダーシップのもとに国際化の実現に努力してきました。

例えば、今年度を「イングリッシュ・イヤー2004」と定め、関連プロジェクトの立ち上げやPRといった様々な企画を国際室は行っています。6月25日にオープンしたインターナショナル・コミュニケーションズ・スペースも、そうした企画の一つです。

このスペースには、海外雑誌などを備えた交流の場であるコモンルーム、大型画面でCNNやBBCワールドサービスが見られるニュースルーム、PCによるインターネット接続ができるコミュニケーションズルームがあり、学生と教職員が利用できるようになっています。

会話だけでなく論文の執筆や国際会議での発表、講義の受講などを学生が英語できちんとできることが重要。学生の英語力が高まれば、ノーベル賞一步手前のような人をスカウトして東工大の先生にすることができます。これからも、他の大学がまだ試みていないことや前例がないことを、東工大は果敢に実行していくでしょう。

[取材/磯太平社・撮影/増淵康夫]

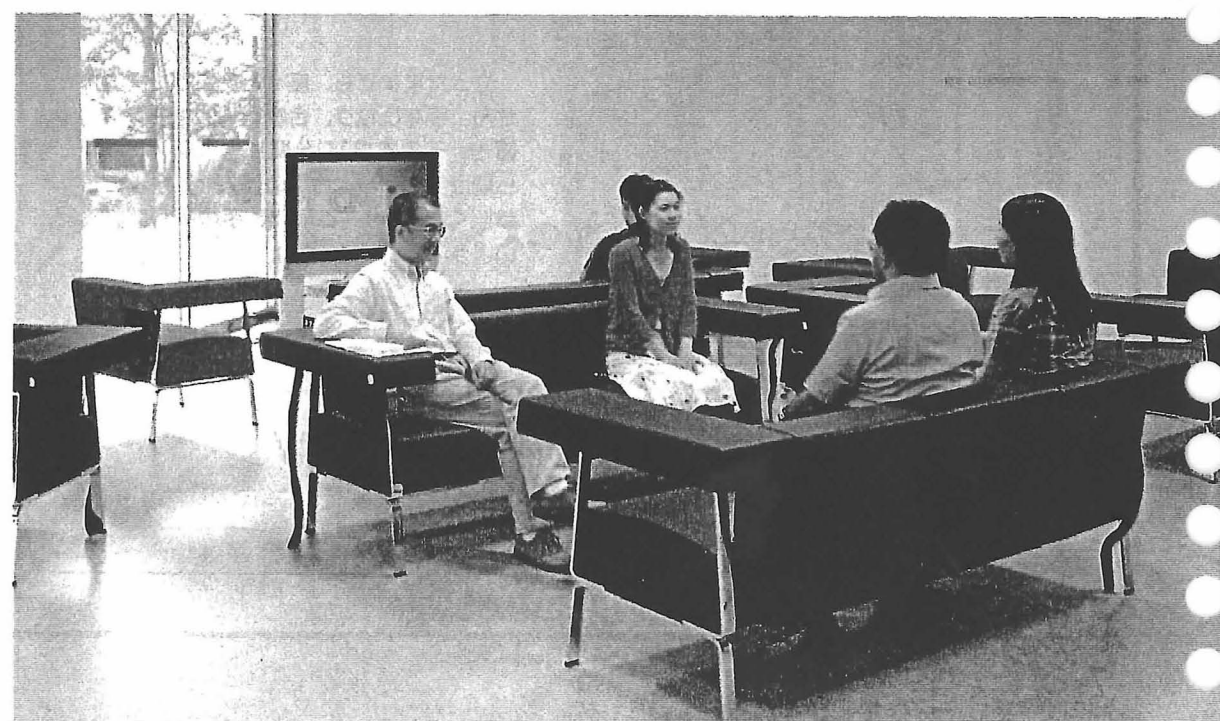


橋爪大三郎さん

[東京工業大学教授、社会学者]

◆プロフィール (はしづめ だいさぶろう)

昭和23年、神奈川県生まれ。昭和47年、東京大学文学部社会学科卒業。鋭い文章で社会現象などに切り込んだ数多くの著書は、幅広い読者に支持されている。主な著書に『冒険としての社会科学』(毎日新聞社)、『大問題!』(幻冬舎)、『人間にとって法とは何か』(PHP新書)がある。



受験生の皆さんへ

志望理由を固めるにあたってのメッセージ

志望理由をまとめるときに意識しておいてほしいことを東京工業大学の橋爪先生が語ってくれた。すべての学部系統に共通することだから参考にしよう。

大学とは学問を突き詰めるところ

大学は、高校までで教えられたことを入り口にして、学問を突き詰めて考える場です。「原理から考えるとこうなるだろう」というところまでとどまってしまうていては「本物の勉強」をしていないとは言えません。「理論的にはこうなる。今ここで実験をしてみるとこのようになるはずだ。ただ、その際の条件は2つある」などと実際に行うにあたって発生する様々な条件を考

えて語ることができて、初めて「本物の勉強」をしているといえます。大学では、ここまで学問を突き詰めていきます。高校生の時からテストのための勉強や受け身の姿勢ではなく、真剣に学ぶこと、それが土台になります。

「将来どんな仕事をしたいか」を自分で決める勇氣を持つ

大学で学部を選ぶときに考えておいてほしいのは、将来どんな仕事をしたいかということ。大学は、卒業後に企業や研究機関の一員として、あるいは弁護士などの資格を持った職業人として「働く」ことを前提に学ぶ場だととらえてほしいです。めざす仕事が決まらないという人

志望理由を考えたら、形に残しておく

入試本番でできしさをアピールするためにも、考えた志望理由はきちんと形に残しておこう。今月の添削課題は「大学で学ぶことの意義」、「科学技術と日本社会」の2本。どちらもきみの考えたことをきみ自身の言葉で形に残しておくことができる。ぜひ取り組もう。

東京工業大学大学院社会理工学研究科価値システム専攻教授
橋爪大三郎先生

